

岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL. 86
2023.6

TOPICS

1

上海大学と協力協定を締結 ～研究インテグリティを確保し、プロジェクトベースで研究力向上・イノベーション創出強化を推進～



本学は5月29日に、上海大学との国際交流の協力協定を締結しました。協力協定調印式では、成旦紅党委員会書記や劉斌院長らが来学。本学側からは鈴木孝義副学長(国際・同窓会担当)らが参加しました。那須学長はあいさつで、成党委員会書記の来学の歓迎とともに、日中国交正常化50年が経過し、今後もさらなる共創のもと、日中だけでなく世界に向けての貢献を両大学で進めていきたいと述べました。成書記からも上海大学の歴史とビジョンが紹介された後、共に新しいものを築き上げていきたい点などが述べられ、協定書への調印が執り行われました。

共創するパートナーであるからこそ、明確な拒否を明示することやポジティブに協働することなど、研究インテグリティの基での関係を構築することが重要となります。また、本協定締結に伴う個々の具体的なプロジェクトは、両国の法規制などを鑑みた契約を結び、実施することになります。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id12160.html

TOPICS

2

岡山大学・米務省「重要言語奨学金(CLS)プログラム」開講式を挙

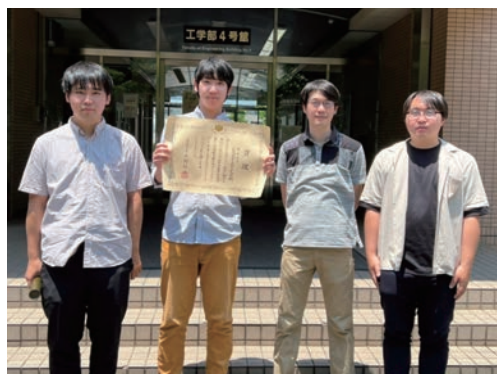
本学が日本唯一の派遣先として2019年度から採択されている「米務省重要言語奨学金(CLS)プログラム」を4年ぶりに対面で実施し、6月16日から8月8日までの8週間、全米から選抜された25人の大学生・大学院生を受け入れます。

6月16日に実施した開講式では、CLSプログラム修了生で、現在、岡山大学地域総合研究センターに在籍しているNatalie Montecinoさんと、ハーバード大学大学院に進学したDavid Andersonさんから2023年度生に向けて応援のメッセージが送られました。その後、2023年度CLS学生を代表してMatthew Thomas Steinhauerさんが「今まで教科書だけで勉強してきましたが、いよいよリアルジャパンに対面です。これから想像以上のチャレンジに直面することがあるかもしれませんが、みなさん、そんなチャレンジを通じて自分の可能性を伸ばし、一緒に成長しましょう」とあいさつしました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id12195.html

Pick up!

基盤ソフトウェア/セキュリティ学研究室(山内利宏研究室)の学生が第18回情報危機管理コンテスト「文部科学大臣賞」を受賞



5月27日に、基盤ソフトウェア/セキュリティ学研究室(山内利宏研究室)の学生4人が、第18回情報危機管理コンテストで「文部科学大臣賞」を受賞しました。受賞したのは、戒 恒司さん(大学院自然科学研究科 博士前期課程2年)、道下大悟さん(大学院環境生命自然科学研究科 博士前期課程1年)、岡山 貴政さん(工学部 4年)、神保 啓幸さん(工学部4年)。

学生たちは、文部科学省の教育プログラム「成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成(enPiT2)」の修了者または現役受講生です。受賞した学生は「チームワークを発揮した課題解決が高く評価され、荣誉ある賞をいただくことができました。このコンテストでの経験を活かし、周りの方々との協力を大切にしながら、今後の研究活動を進めていきます」と喜びと今後への意気込みを語りました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id12186.html

TOPICS
3総合技術部が大学コンソーシアム岡山主催
「日ようび子ども大学in京山祭」に出展

総合技術部は6月11日に、大学コンソーシアム岡山主催の令和5年度「日ようび子ども大学in京山祭」に出展しました。

本学総合技術部は、「ペットボトルでつくるキラキラ万華鏡」と題したブースを出展し、科学のおもしろさや家族等で協力して制作する楽しい時間を提供しました。

今回の出展では未就学の参加者でも体験できるよう安全かつ誰もが体験できるように工夫しました。午前、午後の開催ともに、整理券が数分で配布が終了するほどの人気となり、参加できなかった子ども達には、予備実験等で作成したペットボトル万華鏡を覗いてもらい、ビーズやおはじきが生み出す不思議できれいな模様を体感してもらいました。

今後も総合技術部では、様々な技術を有する技術職員の社会貢献活動の推進や技術の提供による人材育成、今回のような子ども達も楽しく科学に触れられるテーマなどを継続して実施し、「地域中核・特色ある研究大学：岡山大学」の一翼を担っていきます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id12202.html

TOPICS
4那須学長が国立大学学長としてはわが国初の
「中小企業応援士」に選ばれました

本学の那須保友学長が、地域の中小企業をサポートする独立行政法人中小企業基盤整備機構の「中小企業応援士」に選ばれ、6月22日、同機構の松尾一久中国本部長から感謝状及び委嘱状を手渡されました。

「中小企業応援士」は、中小機構が中小企業や小規模事業者の活躍及び地域の発展に顕著な功労のあった各地の経営者や地域支援機関の代表者らを選び、委嘱する制度で、令和元年度に創設されました。

那須学長は、自身でベンチャー企業を立ち上げた経験や、副学長時代に「岡山大インキュベータ」の活用促進などで地域経済に貢献したことが評価され、今回の選任につながりました。中小企業応援士に国立大学の学長が選ばれるのは、全国で初めてとなります。

那須学長は、「岡山大学として企業との共同研究やDX化の促進に協力し、これまでの経験を生かしてよりいっそう地域企業の発展に貢献していきたい」と今後の意気込みを語りました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id12205.html

PRESS
RELEASE液体をつかむ？
アリのユニークな液体の運搬は、餌の粘度が鍵！

岡山大学学術研究院環境生命自然科学学域（農）の藤岡春菜助教と、フリブール大学（スイス）のManon Marchand 博士、Adria LeBoeuf教授は、トゲオオハリアリの採餌行動が液状餌の粘度によって変化することを発見しました。さらに、粘度に応じて行動を変化させることで、トゲオオハリアリは、効率的に多くの餌を持ち帰っていることが解明されました。

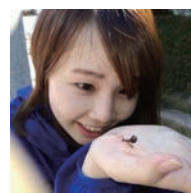
本研究では、トゲオオハリアリが液体の餌の粘度によって運搬方法を使い分け、運搬効率を高めていることを世界で初めて発見しました。

藤岡助教は「この研究は、物理学者であるManon博士とのコラボレーションによって、大きな成果をあげることができました。液体の粘度や重力は、生物学者の私にとって普段は全く馴染みのない現象ですが、動物世界を理解する上で大切です。Adria教授にもたくさん支えていただき、共著者のお二人にはとても感謝しています」と話しました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id11102.html



図1. トゲオオハリアリが大顎で液体をつかむ様子（バケツ行動）



藤岡助教

